

IT資産管理ツールと分析ツールのコラボで 日常業務の改善をサポート

働き方改革が進む中、IT分野において何から着手すべきかを悩む企業は少なくありません。当社は、IT資産／セキュリティ統合管理システム「ManagementCore(以下、MCore)」と分析プラットフォーム「Qlik Sense」を連携させ、日常業務の効率化のヒントとなるソリューションを提案します。

IT資産管理「MCore」で得られる データを活用

少子高齢化や労働形態の多様化が進む日本では、現在、国を挙げて「働き方改革」に向けた取り組みが活発化しています。長時間労働や残業の是正、転職、子育てや介護との両立などさまざまな問題が絡む中、企業は、この問題にどこからどう取り組むべきか、悩みを抱えているケースも多いようです。

当社が取り扱う「MCore」は、住友電工情報システム社製のIT資産／セキュリティ統合管理システムで、IT資産の管理、情報漏えいの対策、内部統制を行う上で必要な機能を統合したシステムです。大規模環境(1社あたり平均5,000クライアント)への豊富な導入実績を誇るほか、分析ツールとのシステム連携や他システムからのデータ移行、お客様に合わせた個別カスタマイズの対応実績も数多くある製品です。

お客様のA社では、このシステムを使ってグループ2万台のPCに対するIT資産およびセキュリティを管理しています。当社は、A社から「現在導入しているMCoreを活用して働き方改革への

取り組みを始めたい」という相談を受け、課題解決に向けた検討を開始しました。

MCoreは、企業のITにおけるPCの管理から監査、統制までオプションで拡張が可能であり、お客様が必要とされるコンプライアンスからセキュリティ対策までを統合的に管理できるソフトウェアパッケージとなります(図-1)。例えば社員のPCにどのようなソフトウェアがインストールされているか、PCのセキュリティ設定に問題はないか、実際にPCでどういった操作や作業が行われているのか、さらには、どのWebサイトをどのくらいの時間閲覧しているのか、といった情報を収集することが可能です。

当社では、こうしたMCoreのクライアントの操作ログを活用し、社員が利用するPCの作業実態を把握することで、日常業務の効率化のヒントになるような情報活用が可能ではないかと考えました。

MCoreと分析ツールの融合

MCoreで収集した膨大で多岐に渡る操作ログを作業ごとに

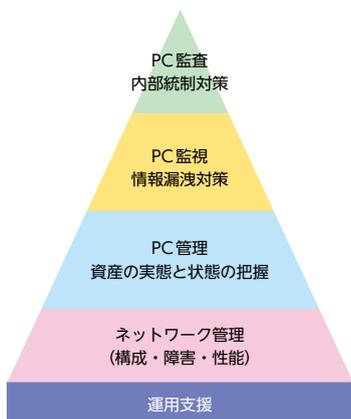


図-1 MCore主要機能一覧

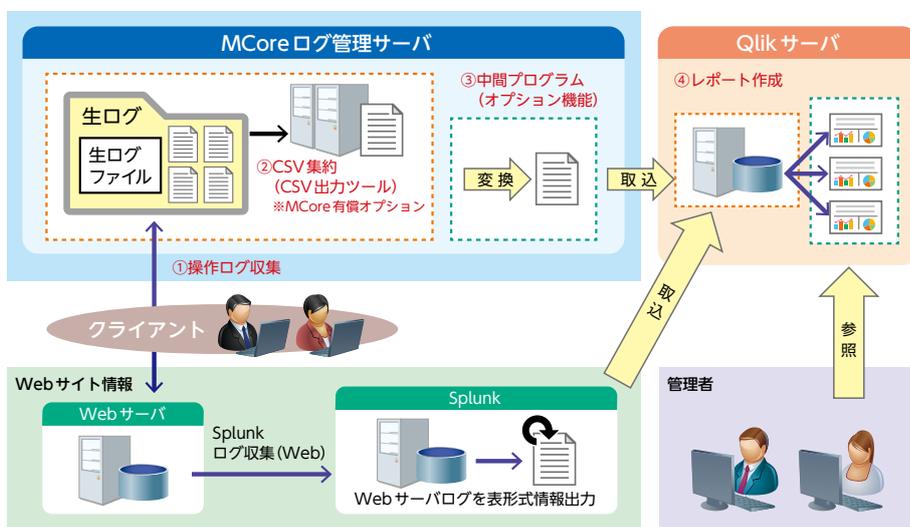


図-2 ログ収集からレポート出力までのフロー

表-1 Qlik Senseの集計項目例

No	集計項目	マスタ情報	マスタを用意する手段	関連付け対象	関連付けキー項目	備考
1	ユーザID	MCoreのPC情報	MCoreサーバからCSV出力	MCore操作ログ	エージェントID	MCoreのタスクスケジューラでマスタCSVを取得可能。
2	氏名	MCoreのPC情報	MCoreサーバからCSV出力	MCore操作ログ	エージェントID	MCoreのタスクスケジューラでマスタCSVを取得可能。
3	組織	なし	なし	-	-	操作ログに含まれる部署情報を使用する。
4	役職	役職者マスタ	要確認	MCorePC情報	ユーザID	
5	サービス名	サービス名マスタ	手動作成	MCore操作ログ	プロセス名マスタ	
6	開始時刻・終了時刻	カレンダーマスタ 時分マスタ	手動作成	MCore操作ログ	操作日時(年月日)、 操作日時(時分)、 終了時刻(年月日)、 終了時刻(時分)	

分かりやすく見える化し、データ活用を検討したのが、分析ツール「Qlik Sense」とのコラボです。Qlik Senseはデータ分析可視化の機能を持った分析ツールで、当社は、製品販売はもちろん、開発元のQlikTech社公認のトレーニングも行っています。分析ツールに早くから取り組んできた当社では、誰でも容易に分析が行えるQlik Senseとの組み合わせにより、お客様の要望に応えられるのではないかと考え2つの製品を融合した提案を検討しました。

しかしながら、今回のMCoreとQlik Senseの融合では、MCoreからの出力データの形式違いや内容不足によりそのままでは社員の作業傾向の分析ができない課題があり、当社はデータ形式のコンバート機能と、操作ログで不足している終了時刻を判断する機能を持ったオプション機能を開発しました(図-2)。

正しい作業時間の計測を行うためにオプション機能では「終了時刻-開始時刻」の差分時間の計算はもとより、複数のアプリを起動し、ウィンドウを切り替えた場合のログや、ウィンドウを起動したまま、ログオフ・スタンバイ・シャットダウンを行った場合のログといった終了判定パターンなども仕様に取り込みました(表-1)。

これにより、MCoreで収集したデータをもとにQlik Senseで種々のデータを分析することが可能となりました。

パイロット的にA社で稼働するPCのうち2,000台を対象に、このオプション機能を導入いただき、毎日夜間に処理をすることで、翌日には社員の作業実態の分析が行えるようになりました。

例えば社員がログインした日時やログオフした日時、WordやExcelで何時間作業をしたか、どのWebサイトをどのくらいの時間閲覧したかといった日々のPCを使った作業情報と社員の作業傾向などを収集できるようにしました。A社では、

収集データの分析によって、社員の非効率な作業を削減したり、社員一人ひとりの作業量の最適化を図ったりするなど、日常業務の効率化への施策具体化に役立てることができるとのではないかと考えています。また収集データは、日次、週次といったタイミングにおいてお客様側で直感的に分かりやすく見えるようになりました(図-3)。

異なる製品同士の融合でお客様の課題解決を

今回の事例をもとに、MCoreを使っている他のお客様に対しても、IT資産管理やセキュリティ対策の強化はもとより、PCから得られる作業実態データをQlik Senseで分析し日常業務の改善をサポートするなど、さまざまな提案・支援を積極的に行っていきます。

また、本件は異なる複数の製品やソリューションを組み合わせることでお客様の課題を解決する、「システム・インテグレーション」としての一例です。

当社のSIソリューション事業部では、さまざまな分野のパッケージやシステム開発に取り組んでいます。単一の製品やソリューションを提供するだけではなく、複数の技術部門が連携して提案を具体化していくことで、お客様の課題解決に向けさまざまな製品やソリューションを融合させて、当社としての付加価値を創出していくことがお客様への訴求に繋がると考えています。

こうした「システム・インテグレーション」にこれからも積極的に取り組み、お客様の課題解決に取り組んでまいります。

(デジタルエンジニアリング第3事業部 溝口 知志)

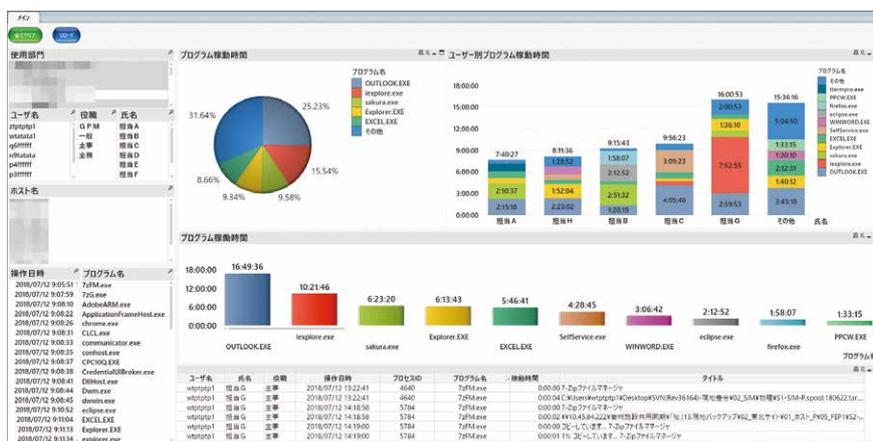


図-3 出力レポート例